



男女共同参画プランの

進み具合は？

平成16年3月、市では男女共同参画社会の実現を目指して「土岐市男女共同参画プラン」を策定しました。計画期間は平成16年度から平成25年度までの10年間で、毎年度計画の進捗状況を確認して、男女共同参画懇話会へ報告しています。

今回は、平成23年度の実施状況について、一部を抜粋してお知らせします。

まず、男女共同参画意識の向上を図るため、講座を開催しました。平成23年12月に開催した香山リカ氏の講演会には、200人程の参加がありました。また、女性の社会参加を促進するための女性の再就職支援セミナーや、働く女性を対象に育児休業制度などに関する情報提供を行いました。その他にも、家事、育児、介護などへの共同参画を進めるため、男性の育児参加を促す学習機会の提供や、家庭教育学級への参加を促す取り組みを行いました。

では、土岐市役所における男

女共同参画の進捗状況はどうでしょうか。毎年内閣府が実施する「市町村における男女共同参

画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況調査」結果によると、平成23年の女性公務員の管理職の登用状況について、土岐市は28・1%で、県内市町村平均の11・5%、全国市町村平均の10・4%を上回っています。が、保育士などを除く一般行政職での登用状況は3・6%と県内市町村の平均の7・8%を下回っています。また、法律や条例に基づく市の審議会などへの女性委員の登用状況について、平成24年は16・3%と昨年より1・5ポイント上昇していますが、昨年の県内市町村平均は24・3%、全国市町村平均は23・4%と、土岐市の現状とは大きな差が見られます。

今後はこうした状況を踏まえ、より一層市の政策や方針決定の場への女性参画を進め、多様な視点で市政を行っていくため、審議会などへの女性委員の登用について重点的に取り組んでいきたいと考えています。



健康ほっとLine

—市立総合病院の医師が健康に関する情報をお届けします—

神経内科の紹介

神経内科第2部長

土川 聡 医師

神経内科は、現在4人の医師で脳血管障害を中心に、頭痛、てんかん、パーキンソン病・脊髄小脳変性症・各種認知症・筋委縮性側索硬化症などの変性疾患、多発性硬化症、神経系感染症などの診療に当たっています。精神科・心療内科と勘違いをされる患者さんいますが、当科は精神的な問題からではなく、脳や脊髄、神経、筋肉の問題から体が不自由になる病気を扱います。難病といわれる病気や、後遺症による介護が必要になる方の多い疾患中心のため、患者さんとは治療・リハビリから介護まで、長い付き合い合いとなります。

最も診察することの多い脳梗塞に対しては、3人の脳外科医師と連携し24時間体制で質の高い診療体制を敷き、理学・作業・言語の各療法士のもとリハビリの体制も万全です。しかし、この地域の方は遠慮深い？のか、脳梗塞の一手手前の症状である一過性脳虚血発作（TIA）による一次的な脱力やしびれ、呂律困難などが出現しても様子を

みてしまう方が多く、実際に脳梗塞を発症し症状が出ていても翌日や休み明けに来院する方が多いのが実情です。発症後3時間以内の治療が重要視されている脳梗塞治療の現場にあつて、これは治療機会の喪失にほかならず、早期の受診を啓発する必要がありますと考えています。

また当地区は、脊髄小脳変性症などの難病疾患も多く、残念ながら現在の医学では治療は困難ですが、病気と付き合うお手伝いをさせていただければ幸いです。

当科が扱う病気の性格上、高齢の患者さんが中心となるため、独居あるいは老々介護など日本社会の現状を直視する場面も多く、鬱々とした気分にもなりまします。しかし、この地域はまだ三世同居の世帯が多く、家で介護を受けられる患者さんが多いのは救いです。とはいえ、介護者の負担が過度にならないよう目配りし、より良い医療、より良い介護のため、東濃在住の医師として心を尽くしていきたいと思っています。